

【様式 2】

平成 1 3 年度 授業実践結果

学校名：

授業者等	授業日	平成 1 4 年 1 月 1 8 日	学 年	3 年次
	授業者	鍵谷英一郎 馬場聖臣	教 科	インターネット
	校 種	高	単 元	パソコンで e メール
	ねらい	ホームページ作成を終え、メールが電話や F A X と同様に便利であることを知ると同時に危険性もあることを認識させる。		
授業の流れ	1 . e m a i l の仕組み			
	2 . フリーメールの取得 現在では広く普及してきているが、ネット上に名前等を公開することによって起こる問題を認識させる。			
	3 . マイクロソフト社の H o t m a i l の登録 登録にはかなり時間がかかるが多くの人が利用していることを認識させる。			
	4 . メール交換 実際にメールをやりとりする中でマナーやルールを学ぶ			
考察	h o t m a i l の登録にはかなりの時間を必要とする。ありきたりの名前では既に利用されているためであるが、ここで生徒は I T 社会の広がりをもて感じるようだ。また、携帯電話を利用している生徒が多く、メール自体への抵抗がないぶんだけ、マナーやルールに関しては関心が薄い。ネチケットと言われるネットワーク上の約束事をしっかりと認識させ上で広く利用を促したい。			

I T 活用が分かるように記述願います。